



Top

《トップに聞く!》

Interview

鉄工関連からスタートし、幅広い産業を支える存在として活躍

当社は今から51年前の1960年(昭和35年)に、鉄工関係の仕事をした、という思いで私の父が創業し、翌年には株式会社志磨鉄工所として法人成りました。社名については、当初は名字の満生(みついき)を社名に使うかとも考えていたようですが、満生は振り仮名をつけないと読みづらい名前であったということもあり、父の出身地である福岡県糸島市志摩町の「志磨」を元に、「志を磨く」という想いを込めて「志磨鉄工所」と名付けたと聞いています。

設立当初は八幡電機精工株式会社との協力会社としてモーターレームの製作等を行っておりました。その後、自動車、半導体、航空、食品、そして医療等幅広い産業を支える存在として産業用機械製造

志を磨き上げ 幅広い産業を支える

等の事業を拡大して参りました。92年(平成4年)には、事業領域の拡大や、より幅広く人材の採用を図る為、社名を「株式会社志磨

テック」へ変更しました。その際、新社名の候補を従業員から募集したところ、ほとんどの社員から「志磨」を残したい、という要望が聞か



株式会社志磨テック
代表取締役社長

みついき
満生 良次氏

■取引店/福岡銀行 黒崎支店

れました。社員の「志磨」に対する思い入れの強さが現れているのではないかと感じております。

**様々なターニングポイントを
乗り越え事業を拡大**

当社は創業以来、オイルショックや円高、鉄冷え、失われた10年等様々な環境の変化に伴うターニングポイントを乗り越えて、事業の拡大を図って参りました。その中で、最も大きなポイントだったと私が考えているのは、昭和50年代に取り組んだ自動車工場用ロボット製造です。



▲当社が手掛ける製品の例①ロボットクレーン

当時は大型の溶接構造物、いわゆる「重厚長大型」事業を主力としていたのですが、そこに円高、そして鉄冷えが起こり、当社を含め

北九州地区の重厚長大型の産業は大きな打撃を受けました。そうした時に、当時の三菱電機株式会社長崎製作所から、アメリカの自動

車工場に使用されるスポット溶接のロボット製造について発注が来しました。自動車工場用の溶接ロボット製造にはこれまでの1,000倍



近い1/1,000mm単位の高精度なモノづくりが必要であるとともに、円高局面であったこともあり、それを低価格で実現することも求められました。そのため、社内では精度と価格の両方とも克服すべきハードルは高く、実現は困難だと猛反対が起こりましたが、最終的に当時の社長だった父の決断で受注することを決めました。

受注後、納品までには従来の作業方法を大きく変更する必要性に迫られる等多くの苦労を伴いましたが、この経験を経て、小さく高精度なモノづくりにも対応出来る実力を身につけることが出来、事業の幅も広げることが出来ました。



▲視察風景



視察風景▶

**他で出来ない物にも対応し、
顧客から頼られる存在に**

当社がこれまで様々なターニングポイントを乗り越えられたのは、創業以来50年間、「他で出来ないモノも作ります」をセールスポイントに、「来るもの拒まず」の姿勢で多岐に渡る業界に携わってきたからではないかと思えます。
当社が手掛ける製品は定型大

量生産ではなく、「品料理のようなものが多い為、今まで手掛けたことがなく、かつ受注時点での当社の能力では対応が困難な仕事も数多く存在しました。当社では、能力的に対応が困難でも物理的には対応可能であると判断して受注した仕事については、当社が不足している部分を、製造開始前にお客様等「不足部分を知っている人」に教えて頂くことで補い、対応して参りました。そうした対応を積み重ねることで、新たな技術・ノウハウを蓄積して対応出来る仕事の幅を広げ、現在ではお客様から当社を頼って来て頂ける存在となることが出来ました。

また、製造開始前にお客様等とコミュニケーションを図りつつ準備を徹底することは、お客様が本場に必要とするものやお客様の現場で本当に使えるものを提供することも可能とし、お客様満足にも繋がっていると考えています。

**「気付き」を促すような
社員教育にも注力**

若手を中心に社員のレベルアップを図ることが、今後の当社にとって必要不可欠なことだと考え、社員教育に注力しています。

現在、週1〜2回、毎回半日かけて、ベテラン社員から若手への技能継承や、従業員に資格取得を促進する機会を設けている他、外部講師を招いて業務管理手法等に関する講義も行っています。特に外部講師を招いての講義の中には、直接業務に結びつくものだけでなく、「人や親としてどうあるべきか」というような自己啓発に関するものもあります。自己啓発を通して社員に「気付き」を促すことで、能力啓発の機会をより有意義に活用してもらうことを目的にしています。

また社員教育の一環として、私自身心がけである「商いは何の為に行うのか？」ということを繰り返

し社員に伝えるようにしています。心がけを具体化すると、「客先の繁栄を願うべし」「注文品はお客様の立場で考え提供すべし」「常に分相応にし、先人に学ぶべし」「自然現象、社会現象をよく観察すべし」ということで、当社の事業展開にあたっての基本的な考え方もなっています。

**現在のターニングポイントも
乗り越え、更なる成長を目指す**

現在、リーマンショック、新興国の成長、そして超円高と、世界的に大きな環境の変化が起きています。そして、この変化は当社にとっ



▲当社が手掛ける製品の例②シリコンインゴット引き上げ装置



▲当社が手掛ける製品の例③ラミネート装置

株式会社志磨テック

志磨テック

検索

- 創業: 1960年10月
- 設立: 1961年5月
- 所在地: 北九州市八幡西区
- 資本金: 8,880万円
- 従業員: 146名
- 事業内容: クレーン納入実績3,500台、産業用機械設計製作、
運搬機械設計製作、地下シールド推進機設計製作、
環境改善機器設計製作、自社製品メンテナンス・
オーバーホール 他
- 事業拠点: 北九州市八幡西区 (本社、工場)

て新たなターニングポイントでもあ
ると考えています。環境の変化に伴
い、中小の製造業は大不況の真っ最
中に置かれており、今後も厳しい環
境は続くと思いますが、変化の先には、
自社製品として現在研究開発
に注力している環境改善機器の新
興国での販売拡大等、新たに当社
が活躍出来る場も現れてくると考
えています。

五十年の節目を迎え、大きなピ
ンチの真っ只中に置かれています
が、ピンチの裏にはチャンスが隠れ
ております。それを掴める様社員一
丸となつて進んでいきたいと考えて
おります。



▲当社が手掛ける製品の例④
福岡タワー用制震装置 (上段)と
福岡タワーへの設置の様子 (下段)



▲左から、谷頭取、満生社長、稲永前支店長 (現 県南地区本部長)

◎インタビューを終えて

御社は創業以来「来るもの拒まず」の姿勢で多岐に渡る業界の仕事を手掛けられることで、高い技術・ノウハウを蓄積されるとともに、過去数十年間に起きた様々な事業環境の変化を乗り越え、幅広い産業を支える存在としてご活躍を続けておられます。

常に変化の先を見据えて技術開発、人材育成等の取り組みに注力しておられる御社ならば、現在起きている環境変化も乗り越え、今後も幅広い産業を支える存在として発展を続けられることを確信しております。



福岡銀行
取締役頭取 谷 正明



Top

《トップに聞く!》

Interview

製鐵所で発生する 高炉ガス灰処理からの出発

昨今、「エコ」や「リサイクル」が重要なキーワードになっていきますが、当社は1949年（昭和24年）、創業者であり技術者でもあった私の父が、八幡製鐵所の高炉から発生するガス灰の中から、鉄を選別して回収する事業を手掛ける企業として創業しました。

原田式乾式交流磁選機にて鉄を選別するという磁力選別技術は、創業60年以上経った現在でも当社の技術の礎となっています。

当社が主力としている事業は、国内の製鐵所等で発生する製鋼スラグの約3割弱を処理しているスラグリサイクル事業ですが、最近、特に力を入れているのが、当社の新工場として05年（平成17年）に完成した、ここひびき工場で手掛けている非鉄金属総合リサイクル事業で

独自の技術を駆使し、 資源リサイクルの更なる 高度化に挑戦する

す。廃棄処分された家電等の部品の中に含まれている鉄、銅、アルミニウム、ステンレス等のベースメタルを分別・回収し、素材加工メーカー

向けに供給しています。また、当社はリサイクルを「業」として実施するだけでなく、リサイクルに必要な選別機器の「開



日本磁力選鉱株式会社
代表取締役社長

原田 光久氏

■取引店 / 福岡銀行 北九州営業部

発」から「製造」まで一貫して手掛けることにより、独自のノウハウを蓄積してきた大きな強みを持っています。金属を選別する際に必要となる磁力選別機や選別システムは、全て当社が独自に設計開発しており、家電リサイクルプラント等にも採用頂いております。

「都市鉱山」からの 資源発掘を目指して

資源が少ない我が国において注目を集めてきているのが、「都市鉱山」とも呼ばれている使われなくなった家電や携帯電話等の電子機器類です。これらの筐体や電子基板等には金や銀、パラジウム等の希少な金属が含まれていることから、これらの金属を効率的に分別・回収して再利用することで、資源循環型社会の構築に繋がるとされています。

当社でも、独自のリサイクル技術を駆使し、独自に開発したリサイクル機器や操業ノウハウにより貴重な資源の国内循環を目指しています。

その取り組みの一例として、08年（平成20年）に北九州市とソニーが協働で始めた貴金属及びレアメタルの再生に関する全国初の実証実



▲スクラップした基板の説明

験に当社も参画しました。
 その実験とは、同市内のスーパーや小学校にデジタルカメラや携帯電話機の回収ボックスを設置して回収し、製品中に使用されている金、銀、パラジウム等を濃縮して回収し、再利用するというものです。回収ボックスに集められた製品は、当社で破碎・選別された後、金、銀、銅、パラジウム等が濃縮した産物として回収されますが、ここで大きな威力を発揮するのが、当社独自のプラントです。

多くのリサイクル企業では、この分別を人手に依存する傾向が強くなる為、コストがかさむことになりませんが、当社は、独自に開発したプ

ラントにより工程の約9割を自動化することが出来たことに加え、選別・回収される銅、アルミニウム等のベースメタルについては、純度

も99%以上となる等、非常に効率良い作業を行っています。また、金、銀、パラジウム等については高濃度に濃縮されて回収されます。更に、

濃縮物から回収された金は、再び携帯電話の部品として使用されています。

現在では北九州市の他に、昨年





▲選別工程の説明



▲アルミ成形品の説明



▲工場見学風景

6月からは福岡市、今年4月からは直方市にも回収ボックスを設置しており、二層の資源の循環に取り組んでおります。

今後、NEDOの助成金を活用して、貴金属及びレアメタルの濃縮物回収用パイロットプラントを建設予定です。

最強の部隊による オリジナル技術の開発

当社の強みは、技術開発から機器製造、そして操業まで一貫したノウハウを持っていることです。

リサイクル事業で使用している磁力選別機等の機械設備は全て自社開発したものです。当社の約400名の社員のうち1割強となる50名が、新たな技術開発、設備設計に取り組んでいます。

製造業では、技術の伝承という課題が必ず出てきますが、当社ではベテランの管理者に若手を2〜3人つけて技術を学ばせることにより対応しております。また、階層別にも研修を随時行っており、こうした技術習得への取り組みが、オリジナル技術を開発する最強部隊の構築に繋がっているものと考えております。

日本磁力選鉱株式会社

日本磁力選鉱

検索

- 創 業：1949年2月
- 設 立：1949年2月
- 所 在 地：北九州市小倉北区
- 資 本 金：4億4,860万円
- 従 業 員：407名
- 事業内容：事業内容：選鉱事業、鉄鋼原料等加工販売事業、非鉄金属関連リサイクル事業、環境関連リサイクル事業、資源リサイクル機器事業、プラント事業、住宅関連事業 等
- 事業拠点：北九州市小倉北区(本社)、北九州市若松区、福岡県京都郡、大分県大分市、山口県周南市、岡山県倉敷市、兵庫県明石市、大阪市大正区、大阪府泉大津市、名古屋市港区、栃木県小山市(工場)、東京都台東区(支店)



▲スクラップ資材の説明

国内外での
環境保護に向けて

新たな取り組みとして、現在、携帯電話や小型電子機器、電気自動車等に使用された後で廃棄処分となったリチウムイオン電池から、レアメタルであるリチウムやコバルト等の金属類を一括して取り出すことが出来るリサイクル技術の確立と事業の構築に注力しています。実現化に向けて、国（NEDO）や北九州市の助成金を活用し、各種レアメタル回収実験を進めています。

これまで長年蓄積してきたノウハウを更に高めるべく、新たな技術開発に注力する一方で、そのノウハウを海外でのビジネス展開にも活用しております。

一例を挙げると、製鉄所の鋼板ライン等で使用される圧延油やアルカリ洗浄液に含まれている微粒鉄粉を除去する機械（HIGAMS：ハイガムス）があります。

この機械はこの度、2010年（平成22年）度北九州市エコプレミアム機器に選定されました。圧延油等に含まれている鉄粉を除去して再利用する為、外部環境へ与える負荷を大幅に軽減することも可能となっています。

当社では、このHIGAMS（ハイガムス）を始めとするリサイクル機器の海外販路拡大や、技術供与も含めたスラグ処理事業等の拡大にも精力的に取り組んでおり、これまで韓国や中国だけでなく、ロシアやウクライナのお客様ともお取引の実績があります。

今後も、国内だけでなく世界中の環境保護に向けて、当社の技術が活躍出来る場を開拓して参りたいと考えております。



▲左から原田社長、谷頭取、有田北九州営業部長、原田常務

◎インタビューを終えて

近年、環境保護に対する意識が高まっていますが、今回、御社が独自に開発された技術で資源のリサイクルを進めておられる現場を、大変興味深く見学させて頂きました。地元自治体や大手電機メーカーと共同で行われているリサイクル事業におかれましても、参加自治体が着実に増加しているとのことであり、事業の重要性が広く認知されてきている結果であると考えます。

引き続き国内、そして世界の環境保護に資する技術開発によって、御社が益々発展されることを期待しております。



福岡銀行
取締役頭取 谷 正明



Top

《トップに聞く!》

Interview

常にお客様のために
創業時から変わらぬ思い

当社がスタートした人吉市は、球磨川沿いに豊かな山に抱かれて、木材が豊富な地域です。また、椎茸やタバコ栽培の生産地でもあり、会社設立時（1964年（昭和39年））は、光進工業株式会社の社名で、椎茸やタバコの乾燥に使う「バーナー（灯油・重油バーナー）」を取り扱っていました。当時は、こうした乾燥を木造の作業場でやっていたのですが、火を扱うだけに火災の心配が絶えません。そこで鉄骨製の作業場を施工したことがきっかけとなり、建設業に参入したのです。その後、現在の光進建設株式会社社名を変更しました。

林業が盛んな人吉では、昔から木造建築物が主流でしたが、そのような中で、火災や老朽化に強い

感謝の気持ちを忘れず 社会貢献をめざす

鉄骨製の建造物や建築物の受注が次第に増えていき、特に各自治体で設置していた「火の見櫓」は、当社の鉄骨製に入れ替わりました。

昭和40年代から昭和50年代にかけては、経済成長とともに大手企業が次々に九州、そして、熊本にも進出。もともと鉄骨建設を得意と



光進建設株式会社
代表取締役会長

井上 太喜郎氏

代表取締役社長

井上 弘太郎氏

■取引店／熊本ファミリー銀行 本店営業部

していましたので、こうした工場や施設の工事の発注を相次いで頂き、建設施工の実績を積み重ねて参りました。73年（昭和48年4月）に熊本営業所を開設し、85年（昭和60年2月）には本社を熊本市に移転、熊本県内には7つの営業所を設け、営業基盤を拡大してきました。

創業当初より、常に一生懸命にお客様のご要望にお応えしたことで厚いご信頼が得られたのだと思います。その結果、お客様からのご紹介によって数多くの建設工事に携わり、熊本県内でも有数の総合建設会社としてここまで成長を続けることが出来たのだとお客様に心から感謝しております。



▲光進建設株式会社本社社屋



▲井上太喜部会長

信頼と技術力で
魅力ある街づくりを
地域の歴史や
文化を表現した「彫刻壁画」

総合建設会社として当社は、公

共施設や医療・福祉施設、学校や幼稚園等の教育施設、マンションや個人住宅、そして土木・水道等のインフラ整備等、幅広い分野の建設、土木事業に取り組んでいます。
今年も九州新幹線も全線開通

致しましたが、熊本管内では、既に開通営業している新水俣駅の流線型駅舎もJV工事で手掛けさせて頂きました。また、着々と街づくりが進む熊本駅周辺の再開発事業にも参加させて頂いております。こ

のような郷土の「顔づくり」という仕事に関われたことに大きな遣り甲斐を感じています。

現在、当社は国際品質保証「ISO9001」の認証を取得し、建設工事の品質管理強化とお客様の満足度向上に二層注力しております。新水俣駅や、阿蘇山麓の清和村（現・上益城郡山都町）の清和文楽館に建築した清和郷土料理館などは日本古来の伝統建築技術を駆使した建物で、「くまもとアトポリス推進賞」や、国土交通省からの表彰（安全施工業者表彰）も頂くことが出来ました。更に、熊本県内の建設業界での経営審査評点で、建築・土木とも高い評価を受けています。民間工事においても、お



▲左から、西村本店営業部長、林頭取、井上会長、井上社長

◀不知火中学校 彫刻壁画
「景行天皇と不知火」

お客様からのアンケートで大変ご満足を頂いているという結果が励みとなっております。

公共施設というのは、多くの人がそこに集って、楽しさや感動を共有し、心身をリフレッシュする空間であって欲しいと思います。当社はそうした環境づくりを念頭に置き、各種建物・施設を建設施工して

います。

その一つとして、別会社における取り組みが、公共施設での「彫刻壁画」です。熊本県宇城市の不知火中学校に設置した「景行天皇と不知火」は、漫画家の川崎のぼる先生に原画を描いて頂き、それをもとに石造り壁画(6×4.7m)を製作しました。原画をもとに御影石の石版を彫り込み、着色加工を施して立体的に仕上げます。

球磨郡の五木中学校には、同じ川崎先生の原画で「五木の子守唄」の壁画(2.6×7m)、その他現在12カ所に納品しております。いずれも、その土地にゆかりの歴史、伝説や文化をモチーフに、ふるさとの心とその地域唯一のものを未来に伝えて欲しいという思いで造っており、生徒さんや地域の方々からも大変喜んで頂いています。

建設、高齢者福祉の両面で社会貢献を していきたい

以前から当社では老

人ホームや福祉施設等の建設を数多く手掛けておりました。福祉や医療は「やさしさと思いやり」が基本であり、する側とされる側、一人の人間対人間として、ぬくもりのあるコミュニケーションを育む空間でなくてはなりません。そうした理念で建物の建設に関わる中で、直接福祉施設の運営に携わりたいと考えるようになりました。

2009年(平成21年)に株式会社光進会介護を設立し、まず、阿蘇外輪山のふもとに有料老人ホーム「太寿園」を開設しました。ここでは、温泉も掘削しています。更に、今年4月には社会福祉法人を設立して、新しい養護老人ホーム「光進園」の運営も開始しました。

長期的な展望ですが、多機能型介護施設や特別養護老人ホームを併設した「福祉村」の実現を通して、社会貢献にも取り組んでいきたいと考えております。

当社は30代40代という若い社員が中軸です。そのバイタリティーを生かして各自の仕事に邁進して欲しいと願っていますが、やはり忘れてならないのは「感謝の気持ち」です。自分の仕事をどう工夫し、努力すれば、社会へ貢献出来るかを、絶えず念頭に置くように、社



▲「太寿園」にて進む温泉掘削の様子

員一同努めております。仕事とは別に、地域の清掃活動をしているのもその為です。

今年6月には、今まで私の片腕として社業を牽引してくれた中園俊介社長に代わり、副社長だった井上弘太郎が社長に就任致しました。お客様への感謝の念を忘れずに、地域社会に貢献する会社経営に当たって欲しいと願っています。

光進建設株式会社

光進建設 検索

- 創 業: 1964年6月
- 設 立: 1964年6月
- 所 在 地: 熊本県熊本市
- 資 本 金: 8,000万円
- 従 業 員: 81名
- 事業内容: 総合建設業
- 事業拠点: 熊本県熊本市(本社)、人吉市(支店)



▲五木中学校 彫刻壁画「五木の子守唄」



▲井上弘太郎新社長



▲本社社屋前にて

井上弘太郎新社長から

光進建設株式会社に入社して以来、先輩諸氏に指導を頂きながら務めて参りました。当社は間もなく創業50周年を迎えますが、これからも、会長や前社長はじめ全社員一同が目指してきた「感謝の気持ちをお忘れず社会に貢献する」という経営理念を常に心に刻み、お客様と当社を支えて頂いているお取引先の皆様方、そして地域社会にとって、より価値のある会社経営を目指して参ります。

◎インタビューを終えて

御社は、高い建設・施工技術力や「彫刻壁画」等の付加価値建築への提案力に加え、常にお客様に対し「感謝の気持ち」で真摯に取り組まれてこられたことが、今日のご発展とお客から厚い信頼に繋がっているものと存じます。

この6月に新社長がご就任され、これからは熊本の街づくりや地域社会へのご貢献を通じて、御社が更に躍進されることを心より祈念致します。



熊本ファミリー銀行
取締役頭取 林 謙治



Top

《トップに聞く!》

Interview

石炭運搬船・漁船から 幅広い船種の船舶建造へ

当社は1902年(明治35年)、祖父の田原卯三郎が長崎で船舶の建造や修理を手掛ける「田原造船所」を創業したのが始まりです。

創業当初は長崎市周辺で採掘されていた石炭の運搬船建造を手掛けておりましたが、60年代の石炭から石油へのシフト、いわゆるエネルギー革命の影響を受けて炭鉱閉山が相次いだことに伴い、主力事業を漁船の建造へとシフトさせて参りました。

その後、85年(昭和60年)のプラザ合意後の円高による水産物の輸入増加等をきっかけに、漁船だけでなくその他内航船等を手掛ける必要性を感じるようになりました。そこで、それまでの本社工場(旧戸町本社工場)では手狭だったこともあり、より大型の船舶建造にも対

近代造船発祥の地長崎で 限りない可能性を持つ 「船舶」に挑みつつける

応可能な船台を備えた現在の本社工場を93年(平成5年)に新設、国内航路で運航される内航船の建造に着手しました。

現在では日本トップクラスのシェアを有するまき網漁船の建造を主力事業としつつ、貨物船やタンカー等幅広い船種の船舶建造も手掛け



株式会社渡辺造船所
代表取締役社長

渡邊 悦治氏

■取引店/親和銀行 長崎営業部

しております。

漁船建造の経験を活かした
オーダーメイドで
付加価値の高い船造り

93年(平成5年)に内航船建造へ参入した際、当社は内航船事業者としては後発の立場にありました。そこで、当事業を拡大していくためには、既存の造船業者との差別化を図ることが必要だと考え、漁船建造の経験を活かして「あらゆる船種に対応すること」、そして「船主様の要望を聞いて、丁寧に良い船を造ること」に注力してきました。

当社は長年主力としてきた漁船建造を通して、船舶の設計から建造まで一貫した自社独自の技術・ノウハウを蓄積してきました。漁船建造では、悪天候下での作業や長期に渡り船内で生活することも多い為、安全性や快適性をより追求することが必要であり、船主様のニーズや状況に合わせたきめ細かな対応が求められます。その為、当社は内航船建造では外注することの多い設計部門を社内にも有する等、船種毎に専門化や定型化が進んでいる瀬戸内地区の内航船専門造船所とは異なった対応を行って参りました。



船主様の要望に応え続けることで蓄積したノウハウ等により、当社では幅広い船種で船主様の細かなニーズに応えた、付加価値の高い船造りを実現しています。そうした当社の船造りは、「非常に親切な対応をしてくれる」とご好評頂いており、当社のリピーターとなつて頂ける船主様も数多くいらっしゃいます。

自社オリジナルの「移動屋根付き全天候型ドーム式船台」

内航船への参入の為に建設した本社工場には自社オリジナルの設備である「移動屋根付き全天候型



▲移動中の屋根

ドーム式船台」があります。

この船台はドーム式の船台で船造りを行っていたノルウェーの造船会社を視察した際にヒントを得て、当社が日本で初めて建設したものです。当社独自の仕様として、ドームを固定せずに移動式とすることで、大型クレーンによる船体ブロック搬入が可能となっています。

この船台は当初、船舶建造に伴い発生する粉塵や塗料等の周囲への飛散を防ぐことを目的として建設しました。ところが、実際作業を始めたところ、ドーム式にしたことにより風雨の影響が軽減される他、昼夜、夏の気温変化を平均化出来るようにもなるという意外なメリットがあり、船舶組立の溶接部分の発錆防止や塗装工事での品質向上、そして作業工程の大幅な効率化にも役立つ等、当社の強みの一つとなっています。

近代造船発祥の地、 長崎の優秀な人材の力を活用

今日、多くの産業で製造工程の機械化が進んでいます。船造りはまだまだ人手による技術が必要な「匠」の世界です。そして、長崎は近代造船発祥の地として現在でも多数の造船所や関連企業が集積し、



▲電気推進式セメント運搬船

造船に関して優秀な人材が豊富に存在しており、当社にも創業以来の「匠」の技術が受け継がれてきております。

内航船建造はバブル崩壊の影響を受けて90年代をピークに建造量が大きく落ち込み、更にリーマンショックの影響も受ける等、厳しい環境が続いております。こうした状況に対応していくには社員の力を最大限発揮することが必要だと感じています。その為、当社では現在、整理整頓、報連相、時間厳守等の「当たり前なこと」を徹底することで、より強い企業体質の構築に注力しています。



▲液化ガス (LPG) 運搬船

株式会社渡辺造船所

渡辺造船所

検索

- 創 業:1902年7月
- 設 立:1948年7月
- 所 在 地:長崎県長崎市
- 資 本 金:3,000万円
- 従 業 員:75名
- 事業内容:各種船舶設計建造並びに修理
- 事業拠点:長崎県長崎市(本社、工場)



▲建造中のフェリー内部視察風景

「船が将来あるべき姿」の
実現を目指して

現在、当社ではこれまでほとんど手掛けてこなかった新たな船種の建造に注力しています。その一つがフェリーです。今年既に2隻の受注に成功しており、今回の受注をきっかけとして更に拡大していきたいと思っております。また、昨年には海外航路で運航される外航船を初めて受注致しました。これまでの外航船は数万トンクラスの大型船舶が中心でしたが、今後はアジア域内の物流網の更なる拡充に伴い、より小回りが利く数百〜数千トンクラスの中小型船舶への需要が高

まってくるのではないかと期待しております。

そして先々には、時代と共に変わる船主様のニーズに 대응続けるため、CO₂排出が少くない船舶等、既存船舶の単なる造り替えではない、その時々が必要とされる要素を盛り込んだ、「船が将来あるべき姿」を実現出来るような研究開発にも注力したい、と考えております。

当社は創業以来約110年受け継がれてきた細やかな造船技術を守り船造りに取り組んで参りました。今後もその基本は大切に守り、船主様のニーズに応えることの出来る、あらゆる船舶の建造に注力して参ります。



▲左から渡辺社長、鬼木頭取、前田長崎営業部長

◎インタビューを終えて

本日は、船台のドーム屋根が移動する様子や、間もなく就航となる船舶の内部を拝見させて頂き、非常に興味深く有意義な視察となりました。

また、社長様のお話をお伺いし、常に時代の流れを見据えながら顧客ニーズにきめ細かに対応してこられたことが、漁船、内航船、そしてエコシップと幅広い船種での受注の獲得に繋がっており、これからも長崎の基幹産業である造船業を支える存在としてご活躍を続けられるだろう、という確信を得る事が出来ました。



親和銀行
取締役頭取 鬼木 和夫